

環境経営レポート

双葉産業 株式会社

2022年度版

(対象期間 2022 年4月1日～2023 年3月31日)



2023年5月1日発行

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	1
環境経営方針	1
組織の概要	2
認証・登録の対象組織・活動	2
事業所の紹介	2
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
主な環境負荷の実績	4
環境経営目標及びその実績	4
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画	5
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	6
外部からの環境上の苦情・要請等	7
緊急事態対応の施行・訓練	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8
これまでの環境活動の紹介	8



誰もが一度は見たことのあるあのおにぎりやお弁当を、
一つひとつ心を込めてつくり上げるのが、私たちの仕事。
大手コンビニチェーンで親しまれているたくさんのおいしさをお届けすることで、
地域に寄り添い、地域とともに成長する企業でありたいと考えています。

□ごあいさつ

私たちの会社は、1969年4月に家電・業務用冷蔵庫、空調機販売を目的としてスタートしました。
1973年10月に食品製造部門をスタートし地元デパート・ストアに惣菜・米飯の納品を開始するようになりその後1997年2月に株式会社セブン・イレブン・ジャパンに惣菜・米飯を納品するようになりました。

私たちは、安心して安全な商品を効率よくタイムリーにお客様のニーズに対応しながら提供することで信頼される企業を目指しております。

事業活動における環境負荷低減、環境対策にもエコアクション21での手法を取入れて従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組めます。

□環境経営方針

<基本方針>

双葉産業は、「お客様に安全で安心そして美味しい商品を提供する企業でありたい」という基本理念のもとに事業を展開しております。

食品企業である私たちは、食文化を通じて地球環境に「やさしい」企業活動に努め、豊かな自然環境を次の世代へ継承する、社会に貢献できる企業を目指します。

地球環境問題は経営の最重要課題と認識し、持続的発展可能な社会を作るため環境経営の継続的改善に努めて参ります。

<環境保全への行動指針>

1. 私たちは、地球環境に「やさしい」商品作りを目指します。
2. 私たちは、地球環境汚染の防止と環境保全のため活動に取り組めます。
 - ・製品ライフサイクル全体から排出される温室効果ガスを抑え、脱炭素社会へ貢献します。
 - ・地球温暖化防止のための省エネ、再資源化を推進します。
 - ・食品廃棄物など発生抑制に努め、食品リサイクル率の向上に努めます。
 - ・次世代のための食資源の確保と水資源の保全に貢献します。
3. 私たちは、安心して安全な商品を効率よくタイムリーにお届けし、不良率の削減に努めます。
4. 私たちは、環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守し環境保全に努めます。
5. 私たちは、地域の環境活動への参加、支援に積極的に取り組めます。
6. 私たちは、環境経営レポートを作成し、環境経営方針は全従業員に周知し、環境問題に対する意識の向上を図るとともに公表します。



制定日 2021年4月1日

双葉産業株式会社

代表取締役社長 徳永 巧

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
双葉産業 株式会社
代表取締役社長 徳永 巧
- (2) 所在地
本社・工場 〒812-0897 福岡県福岡市博多区半道橋1丁目15番33号

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 製造部長 高橋 勝也
担当者 工務課 花城 寛之

Tel: 092-415-6100 Fax: 092-415-6611

E-mail: futaba@futaba-dream.co.jp

URL: <http://futaba-dream.co.jp/company/>

- (4) 事業内容
コンビニエンスストア向けのおにぎり、弁当、寿司等の製造・開発

- (5) 事業の規模(2022年度)

売上高	5,403百万円
従業員	480 名
延べ床面積	3,492 m ²

- (6) 事業年度 4 月 1 日 ～ 翌年 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 双葉産業 株式会社
対象事業所: 本社・工場
対象活動: コンビニエンスストア向けのおにぎり・弁当・寿司等の製造・開発
対象外組織・活動: なし(全組織・全活動を対象とする)

□事業所の紹介



本社・工場



焼つくね



折詰め幕の内弁当



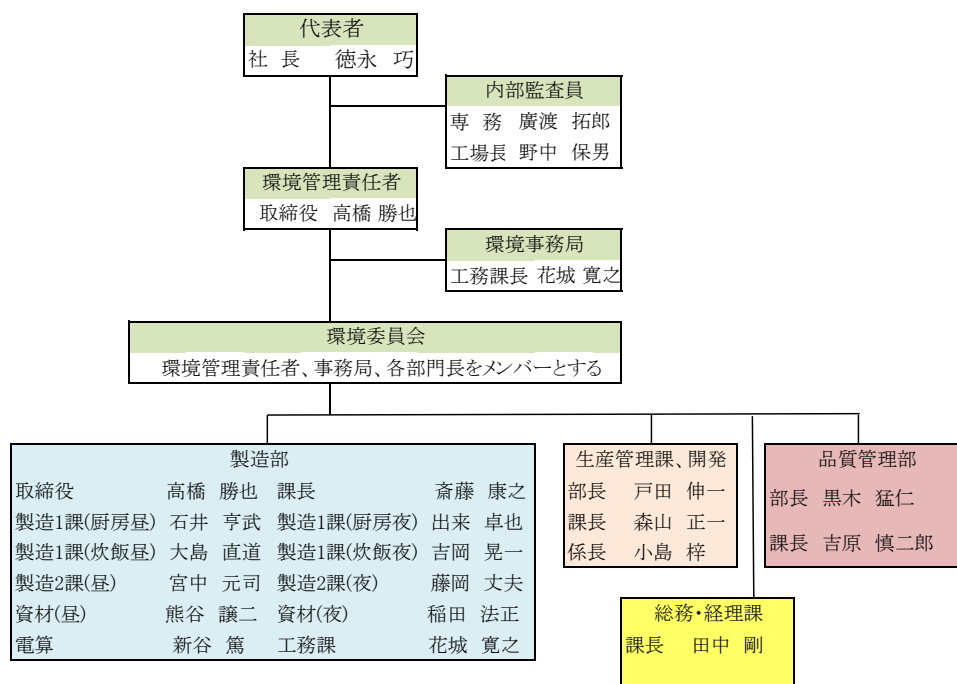
味付海苔おにぎり 辛子高菜



もち麦もちり!鶏めし(ごま入り)



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

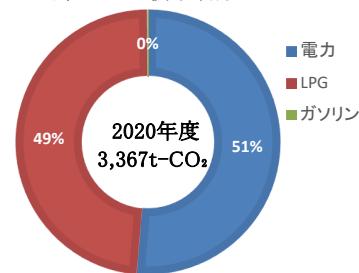


	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価 ・問題点が発生した場合は必要な是正処置を検討
部門長 工場長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

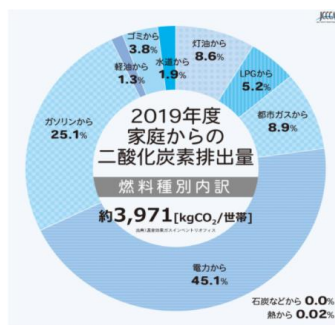
□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2020年度	2022年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	3,366,722	3,522,697
廃棄物排出量			
一般廃棄物排出量	t	0	0
産業廃棄物排出量	t	1,379	1,205
食品廃棄物			
発生量	t	385	328
発生抑制量		74	66
再生利用量		385	328
熱回収量		0	0
減量量		0	0
再生利用以外の量		0	0
廃棄物処理量		0	0
食品再資源化実施率	%	100%	100%
水使用量	m ³	128,730	123,958

当社CO₂排出構造



※電力の二酸化炭素排出係数 0.479 kg-CO₂/kWh 九州電力の2020年度調整後排出係数



当社のCO₂排出量は
一般家庭の887世帯分です。

□環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	2020年度	2022年度		評価	2023年度	2024年度
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,729,495	1,694,905	1,825,392	×	1,677,610	1,660,315
	基準年度比	—	98%	106%		97%	96%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	332.304	325.658	337.877	×	322.335	319.012
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,633,188	1,600,524	1,688,964	×	1,584,192	1,567,860
	基準年度比	—	98%	103%		97%	96%
	原単位 kg-CO ₂ /百万円	313.800	307.524	312.624	×	304.386	301.248
自動車燃料ガソリンによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	4,040	3,959	8,341	×	3,919	3,878
	基準年度比	—	98%	206%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	3,366,722	3,299,388	3,522,697	×	3,261,802	3,228,175
廃プラの削減	t	649	636	725	×	630	623
	基準年度比	—	98%	112%		97%	96%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標	100%	95%	100%	○	95%	95%
	食リ法目標	80%	80%	100%	○		
	基準発生原単位 Kg/百万円	73.9	※177	60.7	○		
水使用量の削減	m ³	128,730	126,155	123,958	○	124,868	123,581
	基準年度比	—	98%	96%		97%	96%
	原単位 m ³ /百万円	24.734	24.239	22.944	○	23.992	23.745
環境に配慮した製品・サービスへの取組	行動目標(次項による)						

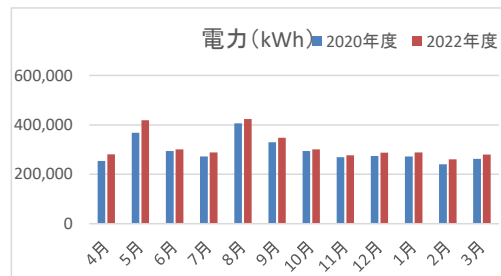
※ 177Kg/百万円は食リ法上の基準発生原単位目標

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	空調温度の適正化がまだ不十分で、作業の効率化はほとんど浸透していない。作業の効率化の推進が課題であり、次年度は改善活動を推進する。
・空調温度の適正化(事務所等:冷房28℃ 暖房20℃)	×	
・不要照明の消灯	×	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	
・水配管の洩れ点検	○	
・生産工程の待機時間短縮	×	

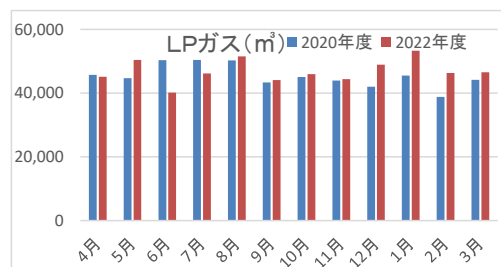


取組紹介欄
古くなった設備機器の入替を行った



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	254,101	368,368	293,950	272,294	406,571	329,580	293,950	268,987	273,700	272,294	240,804	262,374
2022年度	280,795	418,294	300,713	288,643	423,836	347,426	300,713	276,499	287,028	288,643	260,603	279,992

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
LPガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	次年度は今年度できなかった蒸気配管の保温工事を実施する。
・ボイラ・加熱炉の空気比適正化	○	
・蒸気・冷温水配管の保温強化	○	
・蒸気漏れの点検	○	
・温冷水温度の適正化	○	



取組紹介欄

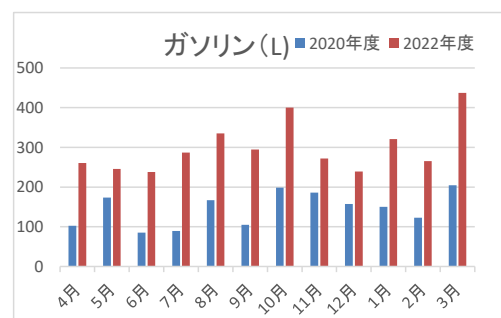


蒸気の回収タンクに循環タンクを付けることにより給水温度を25～90℃になっていたのを45～75℃に安定するようになった

循環ポンプ

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	45,735	44,666	50,367	50,384	50,273	43,343	45,046	43,978	42,053	45,520	38,851	44,180
2022年度	45,115	50,381	40,145	46,179	51,568	44,125	45,961	44,415	48,911	53,324	46,315	46,549

取組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
自動車燃料ガソリンによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	昨年度に比ベグループ間移動による会議等が増えたためガソリンの使用量が増えた。エコドライブの心がけやご指摘件数を減らすことで車の使用時間を減らすようにしていきたい
・アイドリングストップ	○	
・エコドライブの徹底	○	

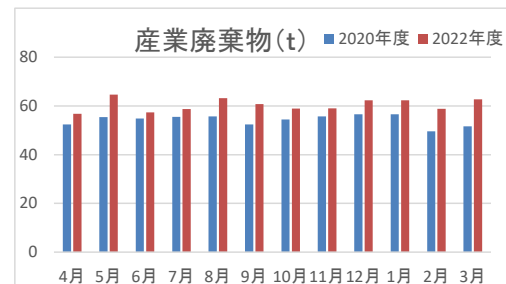


取組紹介欄



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	103	173	85	89	167	105	199	186	158	150	123	204
2022年度	261	246	238	287	335	295	400	272	239	321	266	437

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	使用するビニールシートの大きさの調整や無駄な廃棄を抑えることで削減に取り組んだ
・包材発注量の精度アップ	○	
・包装不良の削減	△	
・分別の徹底	△	



取組紹介欄

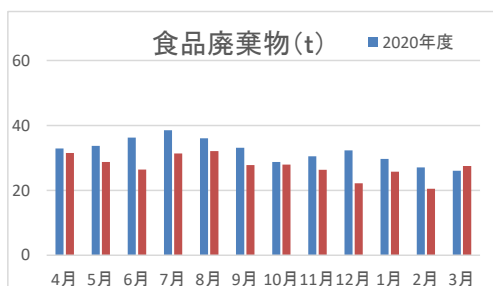


廃棄物分別の実施
 ・金属類・樹脂類
 ・スプレー缶・電池
 ・蛍光灯



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	52	55	55	55	56	52	54	56	57	57	50	52
2022年度	57	65	57	59	63	61	59	59	62	62	59	63

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	歩留り変更の回数を増やしたり生産工程の見直しで食品廃棄の発生が抑えられてきた。 工程改善を図る中で歩留向上等の発生抑制に努めていく。
・原材料発注量の精度アップ	○	
・加工ロスの削減	○	
・在庫管理の強化による不良在庫削減	○	
・分別の徹底	△	



取組紹介欄



・大型のスライサーで切れ残った端材を小型のスライサーで再度カットして廃棄を減らす。

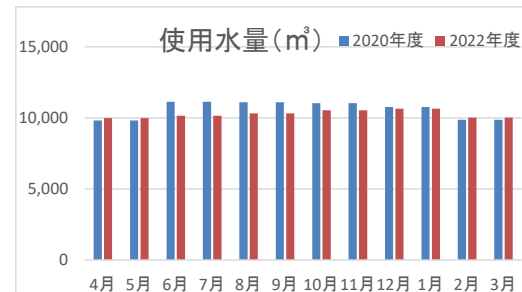


・新しい筋切機を導入して加工した際の残渣量の削減を実施。



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	33	34	36	39	36	33	29	31	32	30	27	26
2022年度	32	29	26	31	32	28	28	26	22	26	20	27

水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	ホース配管にガンを取付けたりバルブなどの水漏れを早期に発見して取替えられた。 洗浄機タンクの給水管にボールタップを取付けて水の出っぱなしにならないようにした。
・ホースにガンを取付ける	○	
・洗浄時の流しっぱなしをしない	○	
・水漏れバルブ、パッキンの交換	○	



取組紹介欄



・ムダ水発生抑制のためガンの取付を実施。



・厨房や洗浄室のアクアクリーンフィルターのボールタップの交換を行い、水量の調整を実施。



区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年度	9,819	9,819	11,141	11,141	11,099	11,099	11,035	11,035	10,771	10,771	9,868	9,868
2022年度	9,977	9,977	10,147	10,147	10,315	10,315	10,528	10,528	10,650	10,650	10,013	10,013

環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・ロングセラー商品の開発	△	長鮮度商品の開発に今後も力を入れていきたい 顧客ご指摘の削減も徐々に進んできてるので今後も継続していきたい
・日持ちする商品の開発	△	
・環境に配慮した包材の検討	○	
・顧客ご指摘削減	△	



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

- ・法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。
- ・環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
- ・食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
- ・なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(動植物性残さ、廃プラ、汚泥、廃油等)
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
下水道法	除害施設
消防法(危険物)	危険物の保管
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業者

□外部からの環境上の苦情・要請等

- ・2022年度中においては、外部からの苦情や要望等はございませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定: 火災の発生	緊急事態の想定:
■実施日: 2023年2月22日	■実施場所: 工場内と屋外駐車場
■参加者: 当日出勤社員	
■実施内容: ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練	
①通報訓練を総務部で実施し評価。②工場内社員は避難訓練。製造社員は、従業員を誘導して避難、点呼確認で全従業員の安否確認を実施。水消火器を使用して消火訓練を実施。	
■評価: 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし	
避難にかかった所要時間は、最短1分、最長5分で完了。安否確認までは10分で完了しており混乱も無く完了。 水消火器を使用して操作方法を経験。他工場内にある消火器の説明もできた。 検討課題: 避難経路の外国語表記が必要か検討する。	
■実施状況の様子	
・通報訓練 	・消火訓練  
・避難訓練   	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2023年3月31日

- ・今年度は、燃料費も高騰しており更なる削減をしていきたい。
- ・食品残渣、水道は、削減出来てきたので来年度もさらなる削減に力を入れていきたい。
- ・労働安全衛生活動もリスクアセスメントシートを利用して工場内の安全作業に活用させる。
- ・避難訓練を避難地図を活用してミーティングで全社員に周知できるように各部署活動をしていく。

環境経営方針
環境経営目標・計画
実施体制他

☒ 変更なし
☒ 変更なし
☒ 変更なし

☐ 変更あり
☐ 変更あり
☐ 変更あり

実績を踏まえて見直すこと



□これまでの環境活動の紹介

廃棄物置き場に分別棚を設置しました。

金属類、樹脂類、スプレー缶、電池、蛍光灯 等を選び出し、ゴミ分別について従業員全体で取り組みました。

5S活動(整理整頓・不要物の撤去)について積極的に取り組みました。



□編集後記

- ・工場でのエネルギーの使用状況、食品廃棄物の発生状況などは、把握できていたが、削減につなげていなかった。
- ・エコアクション21の取組活動をすることで各部署との情報共有ができ、エネルギーの削減・廃棄物の削減の活動促進ができたと思う。
- ・次年度は、目標が達成できるように情報共有を行っていきたい。

